

東海地区 現代俳句協会 会報

第84号

令和7年6月30日
東海地区
現代俳句協会

地区役員を退くにあたり

横地かをる

新緑が美しい季節のなか東海地区の役員のひとりとして歩んできた数十年、多くの方々の関わりを振り返りつつペンを走らせています。

俳句を指導していただいた森下草城子先生に俳句の基礎を一から学びました。リズムと季語の大切さ等々。初心者の私には先生のことばの一言一言が新鮮に感じました。先生の作品を数多く読ませていただいた中で、代表的な作品のひとつにつきぎの俳句が有ります。

朝のガラスに富士がきており暗し

草城子

どこか自由さが流れているように感じあるとき、季語について尋ねてみました。季語も大切だが季語をテーマにして書くことだけが絶対視ではない。季語が無くては季感が感じられれば作品として成立しうるということを教えていただきました。そんな自由な雰囲気の中、四十年もの長い歳月を俳句と向き合ってきました。

ところで、平成十一年秋の中、俳句終了後だったと記憶していますが、東海地区の

会長小川双々子先生から「少しお話があります」と呼び止められ、狼狽している私に、小林美代子さんの後任として東海地区の広報を担当してほしいという旨のお話でした。

私には荷が重すぎます。とお断りし幹事長の森下草城子先生にご相談させていただきました。お二人の間では既に話が進んでいたようで押し切られるかたちで平成十二年より広報を引き受けることとなりました。俳句を初めてまだ歳月の浅い私に務めることができるのか不安の日々が続きました。

平成十二年、私が手掛けた会報は4ページのみの量的にも質素なものでした。しかし、十三年からは東海地区の行事など活発さを増し、会員の方々の作品発表の場も拡がったこともありページ数も倍の八ページとなりました。このことは今日まで継続されています。

平成二十三年に広報の役を降りました。後任には大島多津子さん（金子ユリさん）そして今、前野砥水さんへと引き継がれています。当時と比べ現在発行されている会報は活

字も大きく、写真掲載なども多く、その場の雰囲気がよく伝わってきます。

現俳協では全国的に会員数が少なくなってきたと聞きます。そのようななか東海地区では永井江美子本部副会長、大西健司会長を中心に役員のひとりひとりが会員増加へと真摯に向き合っていました。また、数年前からジャズ句会、青年部吟行句会、蒼年部のつばさ句会、鈴木しづ子顕彰会（小中高いのちの俳句大会、全国大学生俳句選手権大会）など東海地区独自の行事も盛大に催されています。そして今、役員も若い方へと受け継がれ活気に満ち溢れています。このことは喜ばしいことです。

当時を振り返ってみますと、小川双々子先生、森下草城子先生はじめ、役員の数の方々とのお別れがありました。

この度、役員を降りるにあたり東海地区の皆様にはご協力賜りましたことを心より感謝申し上げます。

☆巻頭文執筆者略歴

一九四四年長野県生まれ

第十二回海程会賞受賞

第六回海原賞受賞

「海原」「木」同人



俳縁

青年部副部長 亘 航希

この度は思いがけず青年部副部長、理事という大役を仰せつかりました。東海地区の俳句の発展に少しでも貢献出来たら幸いです。

さて三月の下旬に名古屋駅近郊の貸スペースに青年部、蒼年部計七名が集まりました。「現代俳句協会 会長インタビューシリーズ」の撮影です。午後の撮影に備えて午前中はカフェでそれぞれが会長に聞きたい事を集約、どうすれば会長の魅力が伝わるか意見を出し合いました。

撮影、編集を大学生の采女（うぬめ）大地君が担当。同じく大学生の岸快晴君が俳句観の変遷について質問。大西会長にも聞き手の意を汲んで頂き、ベテランと若手作家の邂逅は熱気を帯びるものとなりました。俳句との出会い、金子兜太との裏話、今後の挑戦など三十分の動画となりましたので、詳細を是非YouTube上の現代俳句協会ページにて視聴して頂けたらと思います。

☆亘航希氏略歴

一九八六年愛知県生まれ

第三回鈴木六林賞秀逸賞

いつき組参加、楽園同人



東海地区現代俳句協会

関ヶ原吟行句会

関ヶ原

ふれあいセンター

◆大会賞

裏切も正義戦場どこも茂り

伊藤 政美



流石！貫禄の大会賞です

5	月	18	日
65	名	参	加

秀逸

寝返りは一瞬のこと夏つばめ

大竹 直子

緑蔭に首から入る関ヶ原

長町 誠司

首塚の裏より出づる黒揚羽

川合いつ子

佳作

戦場を逃げゆく途中かたつむり

松末 充裕

植田澄む戦場といふ遠き過去

星野 蘭

関の声遥かなりけり沙羅双樹

春日井勝代

東西に首塚松の芯伸びて

伊藤 政美

揺れる麦揺れざる麦も関ヶ原

長町 誠司

夏薊節くれ多き馬防柵

政本 真紀



◆選者特選賞作品

伊藤 政美 選

配陣の見ゆる高さに揚げ雲雀

平賀 節代

田中 青志 選

裏切も正義戦場どこも茂り

伊藤 政美

大西 健司 選

空砕け雉凶と鳴く笹尾山

中村 誠一

武藤 紀子 選

蜘蛛の囀に夢の残りや古戦場

菊山 千月

平賀 節代 選

厭離穢土欣求浄土や松の芯

森本 昭子

武馬久仁裕 選

決戦地ただ一筋の春の水

前田 敏男

松末 充裕 選

裏切も正義戦場どこも茂り

伊藤 政美

前野 砥水 選

勝関とまがへる不破の青葉騒

村山 恭子

松永みよこ 選

裏切も正義戦場どこも茂り

伊藤 政美

巨 航希 選

検めし首より落つる蛇苺

岡田真由美

有本 仁政 選

夏浅し負け戦の話をしよう

菊山 千月

今井 真子 選

戦場を逃げゆく途中かたつむり

松末 充裕

ひらの浪子 選

関の声遥かなりけり沙羅双樹

春日井勝代

福林 弘子 選

緑蔭に首から入る関ヶ原

長町 誠司

中村 誠一 選

ここありて太平の世や夏野原

水野 大海

村山 恭子 選

こんなはずではなかつたとえこの散る

平賀 節代

長町 誠司 選

寝返りは一瞬のこと夏つばめ

大竹 直子

八木茂都子 選

関ヶ原兵士の数の夏つばめ

武藤 紀子

森本 昭子 選

決戦地は小さき山や夏うぐひす

上村えつみ

◆句会参加一人一句（受賞者除く）

ノスリ攻め行く家康陣地走り梅雨

太西 健司

御首級は椎の落葉となりて舞ふ

今井 真子

いくさ径けもの径ゆく若葉山

八木茂都子

椎の花戦国繋ぐ香りかな

伊藤美千子

一山を騎兵去りけり青嵐

福林 弘子

麦の秋武將の思い散り散りに

松浦 信子

首塚のお供え埋めし椎落葉

森 朋子

青葉騒耳を澄ませば関の声

都築 幸子

首塚の重い程の椎の花

緩詰 里美

卯の花腐し関ヶ原より来る私信

武馬久仁裕

囀ぬ首実験場とは知らず

田中 青志

古戦場の夏野しずかやレクイエム

北野 武志

春雨や天下取りの夢の跡

豆 蔵

天下取り夢まぼろしや花は葉に

細川 敦子

風までも音をひそめて若葉踏む

丹羽 敏之

蚊帳吊草ここに葬り葬られ

有本 仁政

下闇の彼方に狼煙の臭いめく

磯村 武司

夏の蝶青き刃毀れ縫ふがごと

松永みよこ

東西の御霊しづめよ夏落葉

辻 まさ野



揚げ雲雀高く歌えよ決戦地

涼風や幟に偲ぶ激戦地

黒南風や甲冑まとふ心地して

夏霧の晴れて広々古戦場

首塚の脇にひとむら夏薔

水走る決戦の地の薄暑かな

一望の蛙合戦地のほひ

山滴る武将の陣営そのまに

サイダーの口を切りたり合戦図

蝸牛古戦場の案内人

武将碑を囲む山々夏に入る

もののふの吐息のふかし竹落葉

馬防柵踏み越え夏風進む

薄暑光夢ひるがえす旗印

下間に土塁現る不破の関

決戦場見下ろす窓に初夏の風

都築 靖子

佐々木和子

横田 欣子

江黒 愛子

前野 砥水

安藤美佐江

石川 京沙

野口 良恵

金子 ユリ

増井 康子

藤井 美子

度会さち子

岸 快晴

ひらの浪子

堀江 美州

小笠原朋子

大橋久仁子

あめんば跳ね水面の雲に乗ることし

西軍の菓子を選びて明易し

稲妻も君とみるなら甘いロマンス

首塚のひとかたまりの夏蜜柑

雨予報はずれ陣太鼓の清和

緑濃し武将の顔は役所広司

各陣の山々映す植田かな

早苗田にふと甲冑の人映り

首塚に西と東や夏あざみ

天下茶屋味の東西桃の花

万緑や幾万の武士の血しむる

土園 映子

亘 航希

横山久美子

工藤 厚子

竹林 成典

山西 玉美

つだ みき

井上志津子

渡邊 淳子

早川 正博

加藤 ゆか



岐阜県 各位の支援を受け開
会しました。只し遠隔地の
少い方々も、各位の出席を
望みます。余念に残念！

令和8年度 吟行句会の案内

次年度の吟行句会は三重担当です。開催地は各種国宝と連て有名な津市一身体の高田本山です。開催日は五月の第三日曜十八日。各位予定を空けておいて下さい。

第三十回 犬山市 四月十二日

内藤文章を偲ぶ俳句大会 参加報告

内藤文章は蕉門の礎がほぼ確立した、芭蕉後期の高弟ですが、犬山出身の武士であったことから、犬山文化センターで俳句大会が実施されて来ました。五年振りのリアル開催となったことや、東海地区現代俳句協会の元会長の伊藤政美氏が、選者の一角を担われると共に、神野紗希氏の講演開催との事で参加して来ました。

■神野紗希氏講演

講演の演題は「淋しさの底 孤独を詠むという連帯」でした。ご本人によれば俳句甲子園を介しての初期の「寂しいと言いつつ私を薦にせよ」失恋句？から始まった内容を、簡単に報告させて頂きます。

【風景の広がり】として文章の「郭公鳴くや湖水のささにこり」、淋しさの反面で湖水の中に、様々な生命が溢れていることを「ささにこり」と表現した。

【淋しさの底 空間感覚】芭蕉が死の間際に最後の指導として弟子に促した句から、「うずくまる葉の下さむさ哉」この葉は葉を煎ずるための物であり、その底を詠うことで淋しさが一層まじっている。芭蕉が文章でかしたと言った一句です。【いきものへの連帯】「我事と鱸のにげし根芹哉」鱸にとっては生死のはざま。

【鈴木しづこ分かち合えぬ淋しさ】「コスモスなどやさしく吹けば死ねないよ」「など」に思いがこもるを例に挙げながら、俳句作品は時間を越えて共感を生み

【詠まれた孤独が、誰かの孤独と繋がる】一人だけと一人ではない等と講演された。

岐阜県大垣市

ねんりんピック俳句交流大会 案内

ねんりんピック等と言えは特に俳句は老人の遊興の感を思わせ嫌な言葉ですが、本年は近場の大垣市開催ならば、皆さん揃って参加せざるを得ませんよねえ！

永井江美子前会長らが選者を担う、事前投句期間は過ぎましたが、十月十九日の俳句大会の当日投句にては、大西健司会長に武馬久仁裕副会長らと共に、現代俳句協会メンバーにして、奥の細道結びの地俳句協会員も選者を担っています。

当日投句は大垣市サイトピアセンターにて、九時〜十一時の間が受付です。俳句大会は十二時半から十六時まで同所で開催されますが、市内を巡る無料バスも運行されますので、大垣市内の「ミニ奥の細道」を吟行し、小澤實氏の講演に耳を傾ける一日を過ごしましょう。



※俳句会場は大垣市サイトピアセンターです。奥の細道記念館ではありません。要注意！

第十七回 鈴木しづ子顕彰会
小中高生のちの俳句大会
全国大学生俳句選手権大会 案内

◆第七回小中高生いのちの俳句大会

日時 9月23日(祝) 午後1時より
 会場 犬山市文化会館・大ホール
 投句 7月20日迄です。お急ぎを！
 子供とて侮るなれ勉強になりますよ。
 〒484-0055犬山市大字羽黒二丁目五十
 鈴木しづ子顕彰会事務局 宮地瑛子宛
 Tel 0565-67-9325

◆第八回全国大学生俳句選手権大会

日時 9月23日(祝) 午後2-5時
 兼題 「友」又は自由題
 受賞句に合わせた寸劇も開催され、何方でも楽しめます。若い感性の吸収を！
 〒460-002名古屋市中区丸の内3-16-29
 4階 全国大学生俳句選手権大会事務局
 Tel 052-051-3852
 メール obo@daigakuhaiku.com

◆神野紗希氏講演

慣例の神野紗希氏による講演です。昨年は会場にてメタ婆ちゃんとの、ネットでの掛合いトークも開催されるなど、皆さん必見ですよ！お待ちしております。



会場は小牧線「羽黒」徒歩9分

第二回 全句講評講座案内 追伸
 講師 堀田季何氏

会報八十三号にて募集した、八月九日ウインクあいち二〇二〇号室にて開催の全句講評講座の案内で、講師の堀田季何先生の略歴に誤記誤字等がありました。お詫び方々差し替え版を掲載いたします。

◆堀田季何氏略歴

俳誌「楽園」主宰、師系小澤實。歌誌「短歌」同人、師系春日井建。俳句により芸術選奨文部科学大臣新人賞、現代俳句協会賞、芝罘男俳句新人賞齋藤慎爾奨励賞受賞。短歌により日本歌人クラブ東京ブロック優良歌集賞、石川啄木賞を受賞。句集「亞刺比亞」星貌「人形の午後」。歌集「惑亂」、共著多数。現代俳句協会常務理事、国際俳句協会理事、現代歌人協会会員、日本歌人クラブ会員、日本文藝家協会会員、「NHK俳句」選考、兜太現代俳句新人賞選考委員ほか。



◆全句講評講座の募集は四月末に締切り、定員四〇名を大幅に越える五八名の応募がありました。本来抽選で講評参加者を決めるところ、季何先生のご厚意で希望者全員の講評を拝聴できることになりました。また傍聴席も十四名の希望があり、ほぼ満席状態です。乞御期待。

蒼年部の活動報告

青年部を卒業した方で、経験の浅い会員の勉強・交流が目的ですが、青年部も含め広く参加を募っています。初心者や会員外もぜひ連絡を。ほぼ毎月、土曜午後、鶴舞で開催。これまで十五回開催、毎回十数名(二十代〜八十代)が参加。新規の方も増えて活発に活動中。

■第十四回つばめ句会の優秀句

〔午前に鶴舞公園を吟行、午後に句会〕
 サックスの広げる空や春淡し

ひらの浪子

難題はいつか解かる春セーター

村山 恭子

春を待つ昨日焼かれた鬼瓦

野口 良恵

早春の順路持たざる庭園よ

松永みよこ

■第十五回つばめ句会の優秀句

〔俳句バー、兼題「恋」〕

凍鶴の抱き合ふことのなかりけり

高橋 直子

雑踏に見つける君や新樹光

村山 恭子

二本のストローに嘘がある女

車 春吉

春風を二人で遅刻してみたり

岸 快晴

■つばめ句会予定(十三時〜十六時半)

第十六回 6月21日(土)

第十七回 7月19日(土)

第十八回 8月23日(土)

第十九回 9月20日(土) 伏見吟行

第二十回 10月18日(土)

会費 五百円(当日徴収)

三句(当季雑誌) 短冊に書いて持参

★連絡先 蒼年部長 有本仁政

hitomasa@mvd.biglobe.ne.jp
 090-4850-0264

■居酒屋句会開催さる

青年部 菊山 千月



壁に貼った俳句の品書を賞味する。
 「羅のうしろ姿のうたげかな」

四月十九日つばめ句会スベシャルイベントとして、二十三名の参加で俳句バーがオープンしました。兼題は「恋」。俳句の書かれた短冊を壁に貼り、良いと思つた句にシールを貼るという方法でわいわいと選句をしました。お酒を飲みながらの句会、しかも恋の句となれば大盛り上がりで、俳句談議やウン十年前の恋バナにあつという間の三時間でした。拙句が最高得点句になるといふ褒美まで頂き、最後は一本締めで終会しました。有本さん直筆の短冊もとても好評で、皆さん自分の句の短冊を大事に持ち帰りました。今回参加できなかった方も多かったので、第二弾も是非開催したいです。

かつて名古屋にも俳句バーがあつたと聞いています。俳句好きな人がふらつと寄れるお店の千月ママなんてのもいいなあとと思った一日でした。

菊山 千月

青年部の活動報告

◆青年部員の紅紫あやめさんと菊山千月さんが初心者の方に向けた狂俳、俳句講座を七月十九日（土）に開催します。

①狂俳講座・講師紅紫あやめさん9時10分から10時

②初心者向け俳句講座 講師紅紫あやめさん・菊山千月さん10時10分～12時

☆場所名古屋市中公会堂集會室

☆参加費 ①五百円 ②千円 ①と②両方お申し込みの方は千円となります。

☆お申し込み先 なやか句会noteで検索して下さい。

◆村山恭子さんの俳句が、ウェブサイト「暮らし」（新日本カレンダー株式会社）「俳句の日めくりカレンダー」2026年版に採用されることが決まりました。村山恭子さん二十四節気「小暑」の句

お手玉の小豆すつしり飛驒小暑

◆五月十一日に東京で開催された文学フリマに後藤麻衣子さんが出店しました。俳句を日本語カリグラフィーで編み遊ぶZine「編む」の最新刊「台彎旅×俳句字藝」、「HAIKU HAKKU 2025」（三百二十七人の俳句を収録）などです。

◆水越晴子さんの俳句が、句碑建立第一回HAIKU日本大賞秋の部を受賞しました。水越晴子さんの俳句
虫鳴いて一人であゐるをしづかにす

青年部関係のお問合せ＆連絡先

// 青年部長 松永みよこ
// 副部長 亘 航希

0600-4549-65003
0800-1564-34806

tokai.genhai.seinenbu@gmail.com
besttiger48281206@yahoo.co.jp

■名古屋伏見・吟行句会へのお誘い

九月二十日（土・祝）に蒼年部と合同にて吟行句会を開催します。どなたさまもお誘いあわせの上お越しください。

今回吟行のテーマは「あなたの名古屋・マチナカ」です。名古屋在住の方はもちろん、東海地区の皆さんが捉えた名古屋街中の風景や人情を俳句で表してみませんか。

ご都合のよろしい方は午前10時集合で名古屋科学館（名古屋市中区栄二丁目・芸術と科学の杜・白川公園内）と昭和の香り漂う伏見地下街でのお昼ツアー（予定）にご参加下さい。

午後から合流の方は十二時五十分に見の長円寺会館（御案内図参照）にいらしてください。

句会開始は十三時、終了予定は十六時半、投句は三句、参加費は五百円です。



■第八回ジャズ句会へのお誘い

回を重ねるごとに盛り上がりを見せるジャズ句会、今年は十一月一日（土）に伏見・納屋橋のモナ・ペトロにて開催します。ジャズといえば夜、そんなイメージを覆して、多くの方に参加していただきやすい昼下がりの設定にしています。

参加者は兼題で作ってきた俳句を色紙に書き、その俳句を会場の皆さんに紹介します。すると、ジャズミュージシャンが俳句のイメージに基づいて即興演奏をします。サックス、ピアノ、ドラムなど、どの楽器をメインに演奏してほしいですか、どんな曲調が希望かなど、かなりわがままなオーダーにも自在にこたえてくれます。このジャズ句会の生みの親の一人、元東海地区青年部で、現在は東京在住の赤野四羽さんも毎年参加して、尺八奏者としての一面を披露しています。

今年は、例年裏方スタッフとして活動してくれた若手青年部員の俳句を紹介するコーナーを企画中です。

日程 十一月一日（土）十二時開場

会場 十三時開始十五時半終了予定

参加 伏見テラスセナ屋橋モナ・ペトロ

地下鉄伏見六番出口徒歩約七分。

現代俳句協会会員以外の方も、何方でも参加できます。

申込 お申し込みの方に兼題を提示します。お一人様一句ご用意ください。

募集 九月六日（土）より申し込み開始

第二十七回東海地区現代俳句賞 募

現代俳句界に新風を吹き込み、東海地区俳句活動の進展と充実を図るため、左の要領で作品を募集します。

応募作品 雑誌二十句（未発表に限る。受付後の作品変更は不可）

○B4縦書（紙サイズ厳守）

四〇〇字詰原稿用紙二枚使用

○一枚目「題名」「郵便番号・住所・電話番号・俳号（氏名）・年齢」

二行置きに記載

○二枚目 一行目から作品を並記し、二十行目までに二十句収める。

※応募無料（原稿は返却しない）

応募資格 東海地区現代俳句協会員

締め切り 令和七年十月三十一日（金）

送稿先 〒467-0004

名古屋市中瑞穂区松月町1-11-209

松永充裕 方

東海地区現代俳句協会事務局宛

「東海地区現代俳句賞」朱記のこと

TEL 090-4792-4684

メール mmatsuue@yahoo.co.jp

必記事項 一般の部と五十歳以下の部に

分けて年齢別選考の為、応募

用紙に年齢を忘れずに記載の

こと。

顕彰 東海地区現代俳句大賞一名

賞状および賞金三万円

・奨励賞・佳作 若干名

賞状／副賞一〇・二万円

※定例総会席上に授賞式

顕彰後発行する会報紙上

会長が委嘱する地区役員

入賞発表

選考委員

第21回 現代俳句東海大会

俳句大会 日時 令和7年11月30日(日)午後1時～午後4時30分
場所 ウィンクあいち12階1204号室(名古屋駅より徒歩5分・ミットランドスクエア東隣)
内容 入選作品発表・事前投句作品による講評・各賞発表・表彰(記念品贈与)

講演会 講師 中山圭子氏 虎屋文庫主席研究員 / 演題「和菓子歳時記」

大会作品募集要項

応募規定 二句一組千円。何組でも応募可。但し新作未発表作品に限る。二重投句不可。前書き不可。同封の投句用紙かコピーまたは200字詰原稿用紙を使用。1マスごとに楷書で書く。氏名(俳号)にフリガナをつけ、住所、電話番号、会員・非会員の別を記載。大会当日の出欠を明記。投句料は二句一組「千円」とした所定金額を作品と同封の上郵送。但し、学生は無料(学校名記載のこと)※大会には会員・非会員を問わず誰でも参加・投句できます。たくさんのご応募、お待ちしております。

送付先 〒446-0061 愛知県安城市新田町小山31-20
中村 誠一 方 俳句大会作品係

表彰 大会賞、秀逸賞、佳作賞、選者特選賞
締切 9月30日(火)当日消印有効
懇親会 午後5時より懇親会開催¥4,000(会費補助あり)
中華酒場「月華」052-564-5660
ウィンクあいちを右へ出て右へ曲がり信号越えた
右手1階コメダ珈琲店入居中のビルです徒歩2分コレクトマーク名駅4丁目ビル3階

現代俳句東海大会問合せ先

〒467-0004
名古屋市瑞穂区松月町1-11-209
事務局 松末 充裕
電話 090-4792-4684
E-mail mmatsusue@yahoo.co.jp

第62回 現代俳句全国大会

■応募規定

①三句一組・二千円 何組でも可。ただし新作未発表に限る。「三組九句同時投句」に限り、六千円を五千円に致します」
②題詠一句(無料)昭和百年の今年は「昭和」をテーマにした俳句を募集(題詠のみの投句は不可)

◎前書き不可。所定用紙またはWEBで投句。投句料は普通為替、定額小為替(無記名)、現金書留(作品同封)、郵便払込(青い払込取扱票使用)にて。
※郵便払込…加入者名・一般社団法人現代俳句協会/払込口座番号001601652603受領書のコピーを投句用紙に添付。

送付先 〒100-0021東京都千代田区外神田6-5-4 借楽ビル外神田7階
一般社団法人現代俳句協会全国大会係
☎03-3839-8190

締切 七月三十一日(木)必着
顕彰 協会会員誌「現代俳句」に発表。協会刊行物に採録

賞 大会賞、会長賞、後援新聞社賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作。
■全参加者に入選作品集贈呈

■全国大会 令和七年十一月三日(月・祝)午後一時より「東天紅」上野店
☎03-3828-5111

〒110-0088東京都台東区池之端1-4-33
■記念講演 昭和百年をテーマの講演
■懇親会 午後五時より(会費八千円)

■本年は別日、別会場にてイベント開催予定(詳細は後日発表)

第63回 現代俳句全国大会 in 名古屋 予告と案内

毎年開催される現代俳句協会が主催の、伝統ある現代俳句全国大会は、本年度は第62回を迎えます。次年度は第63回となり名古屋にて開催の予定です。

来年はアジア競技大会の名古屋開催と重なり、会場確保が大変に厳しい状況の中で、一年半先ながら東海地区の各役員は、各種調整と下調べに奔走しています。

前回の東海地区が担当の全国大会は、一万句を超える投句を確保しながらも、コロナ禍にてリアル句会中止され郵送大会となりました。此のリベンジをはかるためにも、大会の運営及び投句応募に格別のご協力をお願いいたします。

◇訂正◇

左記のとおり訂正してお詫び致します。

「東海現代俳句協会会報」83号

六頁下段中央「第七回全国大学俳句選手権大会」は「第八回」の間違ひでした。

七頁上段右端の「七年度事業報告」は「事業計画」でした。同じく新年俳句大会の開催日は「二月十五日」の誤記載でした。

また下段の表題「令和六年度会計(案)」は「七年度予算(案)」の誤植でした。

東海地区現代俳句協会会報 第八十四号

令和七年六月三十日発行

発行者 大西 健司

編集 前野 砥水

名古屋市中村区猪之越町三十一-五

印刷 ヨサ美印刷

事務局 松末 充裕 方

名古屋瑞穂区松月町一十一-二〇九